
僕と彼と素晴らしい日

まり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と彼と素晴らしい日

【Nコード】

N4462BA

【作者名】

まり

【あらすじ】

久保が主人公 久保にとってはうれしい一日？

僕の名前は久保利光 文月学園二―A所属で学年次席だ ただそれだけである 毎日同じ時間に起きて食事をとり、学校で学び、帰ってから復習と課題をこなす つまらない毎日を過ごしている ただ……一週間に一度くらいの割合でその毎日に幸福が訪れる それはなぜかというト―

「あつおはよう久保君、いつも早いね」

「やあ吉井君、おはよう」

そう彼、吉井明久君が早めに登校する時があるのだ 彼は文月学園創立以来、初めての観察処分者という罰を与えられた俗にいうバカだ でもそんなところを愛くるしいと思ってしまう

僕は同性愛者で吉井君のことが好きだ 彼のバカな行動に見惚れたり、笑う顔、声、性格、全てを好きになってしまった この想いは誰にも止められない！ たとえ世界が滅びようとも！ 吉井君とさえいられば僕は満足だ！ ……ハアハア、少し熱くなってしまう たようだね でも僕がどれだけ好きであるかは理解してくれたはずだ

「またね 久保君」

「うん また会おう」

AクラスとFクラスでは距離が遠いため一緒にいることができない そのため楽しい一時はあつという間に終わってしまいいつものつまらない日常に戻る いつそFクラスだったらどれだけいいだろう か Fクラスには姫路さんや島田さんといった危険人物がいるし何かと吉井君に暴力を振るってるそうじゃないか 僕がFクラスだったら守ってあげるのに……一生

「今なんか寒気がしたような……?」

そんな僕に転機が訪れた

「我々Aクラスから生徒の見本として一人、Fクラスへ移動して欲しいそうです 期間は一週間なのですが誰かいませんか?」

Fクラスに移動ですって!? それは本当ですか!? な、ならば僕が行こう いやっ行くべき、行かなくてはならないんだ!

「高橋先生、僕が行きます」

「久保君ですか それなら見本として申し分ないですね 頑張ってきてください」

よしっ これで一週間は吉井君と一緒にいられる 実に楽しみだなんて楽しい日々なんだ 素晴らしい 最高だよ

「それでは早速行つてきます」

言うが早いかダッシュでFクラスへと向かう 待っていてくれ吉井君、僕が今行くからね

「Aクラスから一人、生徒の見本として来てもらった お前ら、ちゃんと見習えよ」

『男ですか? 女ですか?』

「男だ」

『『『ちっ!?!』』』

「……後で補修だ それより早く来てもらうか 入れ」
「失礼します Aクラスからは僕、久保利光が見本としてきました
吉井君を筆頭に見習ってください」
「なんで名指し!?!」

それはもちろん……んんっ とりあえず手取り足取り教えてあげる
よ フフフフ、楽しみだ とりあえず授業の聞き方から

「吉井君、そこはこう書いた方が記憶に残りやすい」

「そこはグラフにまとめておこう」

「そっちの計算式、間違っているよ」

「英訳は全部、大体でもいいから訳すといい」

「世界史、日本史は国ごとより年代ごとに覚えたほうがいい」

「さつきからなんで僕ばかり!?!」

『『『観察処分者だからだろ!?!』』』

「みんな嫌いだ!」

よっ 吉井君の声、ニオイ、そのバカそうな顔、全てが僕を癒してく
れる 今までの毎日の苦痛なんてなかったようなものだよ ああた
まらない

「なぜだろう 背中がゾクゾクする」

「風邪じゃないのかい? どれ、額をだしてみて」

「久保君? なんで額同士をくっつけようとするのかな?」

「……冗談だよ」

「ならなんで悲しそうな顔をするの!?!」

とまあこんな感じで午前は終了、お昼の時間だ 吉井君に“ずっと”
”付つきりで教えてたから疲れたよ お弁当でも食べようかな?
んんっ? あれっ?”

「おかしいな お弁当が二つもある」

なぜだろう 確かに一つしか入れた覚えはないのに……

いやつまでよ これは吉井君と一緒に弁当を食べる絶好のチャン
スなんでは？ 吉井君はお弁当をいつも持ってきていないし（盗聴）
いつも購買で何かを買っている（のぞき見） ならお弁当は喜ぶの
では？ 思い立ったが吉日、すぐに行動しよう

「吉井君」

「何、久保君？」

「実はなぜかお弁当が二つあってね 食べられないだろうから誰か
にあげようと思うんだけど 吉井君、いるかい？」

「ええええ！？ いいいの！？ ありがとう！ 久保君は僕の天
使だよ！」

「ぐはあ！」

なっなんてスマイルなんだ…… 今までにこんな笑顔には出会った
ことがない 完璧な笑顔 さすがだよ吉井君！ 君は僕の天使だ！

「じゃあ久保君、一緒に食べようか」

「そっそっだね」

お弁当を開ける そこにはやはり朝作って入れておいたものがある
吉井君に渡した方は…… やっぱり同じだ 間違えて二人分作った
んだね ナイス僕！ 今日という日に作り間違えるなんて素晴らし
い ちょっとキャラが変わってる気もするがどうでもいい

「いただきます（ぱくっ）おいしい」

「気に入ってもらえたかい？」

「うん、すごくおいしいよ 久保君が作ったの？」

「まあね 簡単なものしかできないけど」

「それでも十分すごいよ そうだ お礼に明日は僕が作ってくるよ」

えっ 吉井君の料理？

「（ブシャアアアアアアアアア！）」

「久保君！？ ムツツリーニみたくなってるよ！？」

「……なんでもないさ」

吉井君が料理を僕に作ってくれる 吉井君の料理 吉井君の料理

吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理

君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理

料理 吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理

吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理 吉井君の料理 吉

井君の料理 吉井君の料理

ここは天国かい？

バタンツ

「ちよっ久保くーーーーん！！??」

ハッ！ ここはどこだ！ って僕の部屋の天井じゃないか でもど
うして？ 今は学校にいるはずじゃ…… そう思って時計をみると

――

8時00分(午前)

うんっ遅刻だね

つまりどういうこと？ 夢？ 夢ってこと？ なんだ、今までのことは全部夢か…… 上手くいきすぎてるとは思ってたけどね はははははは

はあ！？ ちょっと待てよ！ ふざけんな！ あんだけのことしといて夢オチ？ なめてんのか！ こちとら優等生やってるからってキれることもあるんだよ！ どうでもいいから幸福返しやがれ！！

「久保、お前が遅刻とは珍しいな」

「少し寝坊をしましてまして すいません」

「今度からは気をつけるよ それにしてもー」

「ほえ？」

「ほえ？ じゃない！ 吉井！ お前はこれで何回目の遅刻だ！」

「50回を越えました！」

「そうか そこでひれ伏せ」

「……………」

「ハッ！ まつまあ久保もいるし今回は見逃してやる ほらっさっさといけ」

遅刻をしてしまったがおかげで吉井君と一緒に登校できた これはこれでいいものだね

「何で久保君は遅刻したの？」

「少しばかり良い夢を見ていたらね 恥ずかしい限りだよ」

「ふーん どんな夢だったの？」

「最終的には吉井君からお弁当をもらっつ夢さ そついえばお弁当を忘れてしまったな」

「あつそれじゃあ（「そつそ）はい」

「これは？」

暖かい箱、というより包み なに入ってるんだらう？

「実はお弁当作りすぎて二人分になってたんだ よかったらあげる

「よ

「いいのかい？」

「うん 正夢になってよかったね」

バタンッ

「ちよつ久保くーーーーん!!!??」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4462ba/>

僕と彼と素晴らしい日

2012年1月11日23時49分発行